

駒の館だより

第22号

平成15年3月1日 発行

明治鍼灸大学附属図書館

〒629-0392 京都府船井郡日吉町

TEL. 0771-72-1181 (代)

明治鍼灸大学図書館報



森を見て木を見よう

附属図書館長 松浦 忠夫

「木を見て森を見ず」という言葉があります。これは細部にこだわる余り全体像を見失わないように、という諫めの言葉です。

この意味するところは我々常に心掛けねばならないことだと思います。特に止め処もなく細分化が進んでいる科学世界の今日においては、確かに木は森の重要な構成要素であり、森の機能を規定しているのは1本1本の木でしょう。しかし、自然の森には多種多様な木々が茂っており、それらが互いに影響しあって一つの森の性格を形作っています。同じ森でもそれが位置する場所、環境によってそのありようも変わってくるでしょう。里山なのか、深山なのか、川は流れているのかいないのか。一隅の極少数の木を見ただけでその森全体を推し量ることは不可能です。まず全体像を把握して、次いで個々の木に目を転じることが大切です。見るべき所、見る為の方法を誤らないためにも。

しばしば学生さんに、どの様な勉強の仕方をしたらいいのか、と聞かれます。肝臓を例にとってみましょう。「君は肝臓についてどんなことを知っている？」

と問うと、ほとんどの学生さんが「肝細胞は……」とか「肝小葉は……」とかいうところから説き起こしてくれます。その結果、肝臓に腸の細胞が混入したり、

思いもかけない所に位置していたり、ということになってしまいます。先ず肝臓全体を見回してみましょ。どこに位置するのか、どの様な形をしているのか、大きさは、周りの臓器との位置関係は、これらが分かって初めて肝臓へたどり着くことが出来ます。中へ分け入るのはそれからのこと。細部情報を軽視する訳ではありません。理解する順序が大切だということ。これは何も学生に限ったことではないでしょう。

我々が対象としているのは「人」という複雑な森。我が図書館は多様な情報の収集に努めています。正確で偏りのない情報に基づいた人の全体像理解の為、大いなる利用をお待ちしております。

ヨーロッパキイチゴ（薬草）

学名 Rubus idaeus L.

バラ科

林間の空地や森のはずれや道端によく生えます。とくに、海拔から500m~600mぐらいからの山地に沢山みられます。

(効能)

糖尿病・胸やけ・リウマチ・便秘・気管支炎・泌尿器系統の感染症等



目 次	
① 巻頭随筆「森を見て木を見よう」	松浦 忠夫
② 自著を語る	
医科薬理学	栗山 欣彌
女性のための東洋医学入門	矢野 忠
③ 私のお薦めの一冊	
「死の医学」への日記	藤田 洋一
朱夏の女たち	山崎 立実
④ 特集1	
佳人(美人)薄命と結核と東洋医学	中村 辰三
⑤ 特集2	
最近「鍼灸の科学化」について考えたこと	川喜田健司
⑥ 新着図書案内一覧	附属図書館
⑧ 図書館からのお知らせ／編集後記	//



自著を語る



医科薬理学



薬理学教室
栗山 欣弥

大学で教鞭を執っていると、研究とその成果の学会報告や論文としての発表、各種依頼原稿の執筆のほかに、専門分野での教科書や著書の執筆や編集を依頼される事が多い。日常の教育・研究・診療などの業務の間に、これらの執筆や編集に関する仕事を遂行していくことは容易なことではない。原稿の締切日に追われた苦しい想い

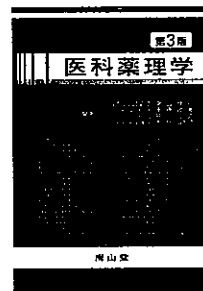
出や、その本を初めて手にした時の喜びなどがなつかしく回想されるのである。本学の教官の先生方も多忙な毎日を通して居られるとは思いますが、是非時間を見つけて執筆活動にも力を注いで頂きたいと考えて居る。

今回取り上げた「医科薬理学」は、私が編集者の代表として発刊したものであり、専門書と言うよりは医薬品を医療上使用する立場の学生、特に医科系の学部や大学院学生を対象とした教科書として、将来臨床で使用する各種薬物の性質、薬理作用、使用方法、副作用などについて詳しく勉強し、あるいは調べたい時に

も役立つ本を目指して編集したものである。薬理学の分野でも多くの教科書があり、医学部や看護学の学生対象など学部別の分類、国試対策を目的とした簡便型のものなど色々なものがあるが、本書はむしろ基礎薬理学から臨床薬理学に至るまで広い範囲をカバーし、真の参考書としても役立つことを目的として刊行した数少ない薬理学の本の一つであると考えている。

現在最新の知見を加えて全面改訂した「第4版」の刊行準備を約40名の執筆依頼者と共に進めて居り、私もその編集責任者として努力を重ねて居るところである。本学では薬理学は選択科目としてのみ扱われて居り、小生の講義を受けに来る学生も毎年30~40名に過ぎず、残念に思っているところである。薬物治療を行わない医療機関はなく、また薬理的な機能解析、あるいは病態解析法は、鍼灸医学/柔道整復学の研究の分野でもしばしば重要な意味を持って来る。この本は本学の図書館にも置いてあるので、機会があれば利用して頂ければと願って居る次第である。

栗山欣弥他編著「医科薬理学 第3版」
744頁 南山堂 東京、2001年刊



『女性のための東洋医学入門』

—自分でできるツボ療法—



健康鍼灸医学教室
矢野 忠

私には「自著を語る」ほどの自著はありません。ここでは鍼灸の啓蒙書について書いたものを紹介します。

書名は、『女性のための東洋医学入門』-自分でできるツボ療法-(日中出版)です。この本は、一般の人、特に女性に東洋医学および鍼灸医学の特徴を知ってもらうことと実際にツボ療法を通してツボ療法の効果を体験していただくことを目的としたものです。

内容の構成は、第1章：東洋医学のことを知ろう、第2章：東洋医学の病気のみかた、第3章：鍼灸医学の基本、第4章：女性の健康とツボ療法の実際、から成っています。特に第4章は、東洋医学からみた女性のからだ、女性の気になる病気、気になるからだのトラブル1（痛みをともなったもの）、妊娠中の不快な症状と病気の予防、すっきりさせたいからだのトラブ

ル、大人と子どものちょっと健康法、で構成されています。このように本書は女性のライフサイクルに応じたヘルスプロモーションあるいは未病治としてのツボ療法の実用書です。そういったことから書名を「女性のための」と名付けています。

本書は一般的には実用書に相当しますが、多少実用書の域を超えて、やや専門的になっています。それは東洋医学あるいは鍼灸医学の基本を正しく理解してもらうための著者の作為によるものです。そのためか本書は鍼灸を学ぶ学生はもとより、助産学を学ぶ学生にも読まれています。また、実地臨床に就いている鍼灸師も患者に鍼灸を分かりやすく説明するための参考として利用されています。なお、本書は、全体的に平易な文章で分かりやすさを第1とし、東洋医学に対する親しみがもてるようにレイアウトやイラストに工夫が凝らされています。

本書が専門的な学術書と異なり、東洋医学や鍼灸医学への興味と理解を喚起することに一役を担うことができれば、著者の望外の喜びであります。



私のお薦めの一冊

「死の医学」への日記

柳田邦男著、新潮社、1999年刊



○ 附属病院
藤田 洋一

この世に生をうけたもので不老長寿を願わぬものはないが、誰も死を免れることはできない。古代から人はみな健やかで長生きしたいと願い、今日でも国を挙げて「健康日本21」の推進に努めている。

著者は少年時代に父と兄を喪い、社会部記者の時も数々の死を目撃して衝撃をうけた経験から、日本人の死のかたち、死に対する意識、死の遺されたものにもたらす影響が変わりつつあることに関心を持ち、多くの書物を出版している。その中で延命医療の取り組みが技術優先となりつつある今日を「尊厳ある死を自分で創らないと人生を完成することができない時代」になりつつあると指摘し、実際に遭遇した

経験症例を詳細に検討している。中でも西川医師との対応には、同窓の斧医師が関わっておられたのを知り、一入感銘深いものがあった。どのケースも関係者のご苦勞に胸をうたれ、今後の医療に示唆を得たと思う。

なお、山崎氏の解説では柳田氏の「やわらかな告知、やわらかな非告知」とは、アメリカ的に機械的に診断結果を告げてしまうのではなく、日本人の文化的、精神的な風土に適した対応を考えようということと、告知に関して留意しなければならないのは「時間」という要素と「語り言葉」によって生きたものになる…それによって信頼関係を深めることが大切なことを伝えている。

これ迄の医学は「パターナリズム」の上下関係であったが、これからはメディカルチームと患者さんのパートナーシップが基本になって病氣に向かいながら、今後の治療方針を決めることが大切であると思う。つい経験に頼り易い日常に警鐘を鳴らされた思いがした。



朱夏の女たち

五木寛之著 新潮社、1990年刊



○ 短期大学部
柔道整復学科
山崎 立実

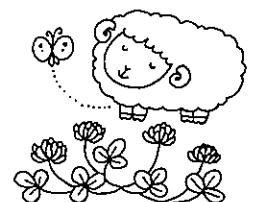
高校の時からのサガンに少しもの足りなく感じていた時、ある婦人雑誌に、翌月から始まる連載の言葉が載っていました。「たしかに三十歳から四十歳への時期は、惑いの時代かもしれません。自立を模索し、惑いに惑う季節。この季節こそ人の命が赤々と燃焼し、揺れ動く灼熱の夏です。(略)すべての人は白秋の道をたどり、玄冬の間を

くぐる。それだけに、朱夏をどう生きたかが、その人の人生の大きな分かれ道になるように思えてなりません。(抜粋)この文章が私の目を惹いたのは、『青春』などという気恥ずかしい季節からは、はみだしている。『白秋の女』というほど透明な気分でもない。(抜粋)年頃に私もさしかかっていたのでしょ。

後に単行本として出版された「朱夏の女たち」を手

にしました。本の題は週末のテレビのタイトルに使われ、「激しい大人の恋をする女たち」の代名詞のように使われたりもしていましたが、私は恋の結末より、小説に登場する人々を通し随所で語られる作者(五木寛之)の感性に惹かれ、一気に読みました。「海を見ていたジョニー」「さらばモスクワ愚連隊」でも感じたことですが、地上のどこに居ても自身を異邦人と感じる作者、そして、外側からの日本観。私も試合を終えて見上げた異国の乾いた空がふと想い出されてしまうのです。

夕焼けの「茜」でもなく、火の燃える「赤」でも、目のさめるような「緋」でもない、「朱のとき」を私はこの大学で過ごしています。



佳人(美人)薄命と 結核と東洋医学



短期大学部柔道整復学科 中村 辰三

古今、日本の美人とは肺結核に代表されるような「色白で頬を染め、黒髪ながく痩せて、口を覆ってこっそり咳きをしてみせる」しぐさをする女性かもしれない。痩せることが美人の条件と思い、最近はやいのダイエットが大流行である。必要以上に痩せたがる学生や若い女性を見かけることがあるが、生命維持のための体力、栄養のバランス、適度の運動、出産等々を考えれば、痩せればよいというものではなかろうと言いたい。

話は変わるが、器はよほど気を入れて作陶したものでない限り魅力は少ない。良い作品は心を揺さぶるものがあり「気」が入っていることが大切である。最近、われわれ男性の気をそそるような素敵な「しぐさ」をさりげなく行う女性が少なくなっている。ダイエットによるスマートな器も大切であるが中身のほうがより重要で「珠磨かざれば光なし」のたとえの如くである。女性らしい品のいい言葉使いやしぐさといった教養ある中身が大切であると思うのだが……。

ところで結核のことに戻るが、日本は医学も含めて中国文化の影響が大である。当地も関係がある丹波康頼の「医心方」は日本最古の医書でもある。そのなかに呼吸器病として「伝屍勞、肺癆、肺婁、虚勞」などが記されている。また枕草子にも「病は胸」、「胸をいみじゅう病めば」等々結核に関する記載があるようだ。「12C、後白河上皇の院政が行われていた二条天皇の治世のころ、石屋という僧がおり、伝屍勞を治癒するのを得意としていた。天皇は石屋を宮中に召され、当時の伝屍勞の治療法であった灸を施させたということである。」(「結核という文化」福田真人著)と記されている。当時は心に重くのしかかる病であった結核も近年、一般には関心も薄れ恐れられてもいない現状



であるが、特に高齢者などの体力の衰えた時には恐ろしいものがある。

また「傷寒論」は張仲景により、「本草綱目」は李時珍により著された古方漢方家のバイブル的存在であるが、江戸時代の代表的医家である本間棗軒、浅田宗伯などは伝屍勞、虚勞など「勞」の治療に苦慮していたようだ。今でも「勞咳」(勞さいの別名=結核)という言葉を知ることがある。勞咳について、当時の医

家は詳しく分類しているが、一般庶民は疲れ果てやせ衰えて死を待つ病という認識だったと思われる。

「勞」は漢方医語辞典によると「疲勞困憊せるものをいう」、また「慢性症にして身体の衰弱を招く病症に用う。」となっている。1882年、コッホが結核菌を発見するまではヒポクラテスの液体病理学説が続き、西洋においても日本(東洋)と同様に確

たる治療法がなかったようだ。たとえば、イギリスでは海水浴が肌や肺を鍛えて肺病によいとして海風療法、温泉療法や山岳地帯に多くのサナトリウムが建てられている。南ヨーロッパでは肺結核であったシヨパンのマジョルカ島での扱いは伝染病的扱いがなされたようだ。

いずれにしても19世紀に入って細菌学、顕微鏡が西洋医学を発展させた。外国のように肌や肺を鍛えることは呼吸器病によいという先人の経験は東西を問わず世界共通のようで、東洋医学の五行説においても肺は肌(皮膚)を司っている。「肺病」と「運命のはかなさ」と「美人」を結びつけることが多いが、肌が白く透きとおり、ほほが紅潮して、目が大きく愁いをおびて、襟足が細長く痩せ型の女性(患者)は現代の美女の条件が備わっていると思われる……。

最近「鍼灸の科学化」について考えたこと



生理学教室 川喜田 健 司

「鍼灸の科学化」という言葉は、これまでごく当たり前のように関連学会や学術雑誌で使われ、その中身は「作用機序の解明」であるとの認識も広く共有されていた。そこで、小生も当時の時流に乗って「作用機序の解明」をめざして研究を続け、「ポリモーダル受容器仮説」なる作業仮説を提唱するにいたった。この仮説によって鍼灸刺激の大筋はおおむね説明可能になったと自負していたのであるが、その矢先に、新しく改訂されたエビデンスのレベルが載ったサイト (<http://www.eboncall.co.uk>) を紹介され、思わぬところから痛烈なパンチを受けることになった。

よく知られているように、EBM (Evidence Based Medicine、科学的根拠に基づく医療) におけるエビデンスのレベルで最も強いものは、均質な複数のランダム化比較試験のシステムティック・レビュー (メタ・アナリシス) である、その逆に最も低い評価を受けていたのは、エビデンスの乏しいその道の権威者の意見であり、その位置づけは十分に納得できるものであった。一方、基礎医学的研究に対する明確な評価基準はこれまでなかった。

今回のリストは、EBM の産みの親である Sackett 博士らの手によるもので、生理学 (的研究成果) や研究室で得られたデータに基づいた専門家の意見 (まさしく小生の立場に他ならない) に対する評価をはじめて加えた。その結論は、5段階中の最下位という、基礎医学者にとってはいささか納得しがたいランクであった。このような基礎医学研究に対するきわめて低い評価は、従来信奉されてきた、「鍼灸の科学化とは基礎医学的な作用機序の解明である」という認識を大きく覆すものであった。

その背景には、実際の臨床の現場において、仮にそ

の治療法 (薬) の作用機序が不明であっても、その有効性が臨床試験によって証明され、有害な副作用が無い (少ない) ことが確認できれば、その治療法 (薬) を用いることが患者にとって利益になるとする考えがある。作用機序の解明よりも臨床上的エビデンス (科学的根拠) の方が必要であるという、まさしく EBM の実践的な立場から生まれてきた見解といえよう。

近年、西欧諸国はいうまでもなく、我が国でも EBM の必要性が強調されるようになってきている。その大きな理由は、来るべき高齢化社会において医療保険制度が破綻することが明白となり、現行の医療行為そのものを有用性、安全性、費用の観点から抜本的に見直し、予防医学を推進する必要があるという社会的要請であろう。

EBM を求める潮流は、次第に CAM (complementary and alternative medicine : 相補代替医療) へも押し寄せてきている。鍼灸も例外ではなく、エビデンスにもとづいた鍼灸治療が求められている次第である。言いかえれば、「鍼灸は非科学的である、なぜならその作用機序が不明であるから」という論理はもはや通用しない時代が到来したともいえよう。

小生としては基礎医学的研究の重要性を主張するものであるが、

時代の要請は、鍼灸の強いエビデンスをランダム化比較試験によって作ることにあることを如実に示した一枚の重いリストであった。



新着東医系図書及び医学系視聴覚資料一覧

(平成14年1月～12月収蔵分)

書名	著者名等	出版社
第1回～第5回 詳細・国家試験問題集 改訂版	明治東洋医学院編集委員会 編	医道の日本社
あん摩マッサージ指圧師 はり師 きゅう師	張 心曙 著/杉 充胤 訳	医道の日本社
手根・足根針	樋田 和彦	地湧社
からだと心を癒す30のヒント	浪越満都子	実業之日本社
自分でできる指圧入門 おせば生命の泉湧く	川名 律子	成美堂出版
写真とイラストでよくわかる! 自分でできる即効ツボ ツボ指圧で体の悩みを	平田 哲也	健康ジャーナル社
10分の均整術であなただも「名医」「からだのゆがみ」を整えて、病気知らず	越田 昭	主婦の友社
〇脚がなおる美脚に変わる めざせ! まっすぐ伸びたキレイな脚	早瀬 久義	現代書林
医者か治せなかった慢性病が劇的に治る 改訂新版 体にやさしい超ソフト手	別冊宝島編集部 編	宝島社
自分で押せる! 目、肩、腰のツボ	河野 慈相	東京図書出版会
驚異のカラバラ法 20歩歩くだけで腰痛から猫背まで治る!	石川 洋一	マキノ出版
万病に効くふくらはぎマッサージ 狭心症、不整脈、動悸、息切れ、心筋梗塞	佐藤正子	家の光協会
女性のためのツボ指圧健康法	形井 秀一	六然社
治療家の手の作り方 反応論・触診学試験	S・パルツジュ・サーバッシュ	たにくち書店
オステオパシー医学手技テクニック 第2・3巻	山田 仁/橋爪紀知/工藤幸一郎	主婦の友社
パソコン症候群が見る間に治せる裏技66 特別添付 目が良くなる「3D」+「A」	山崎 一夫	大泉書店
山崎一夫流自分でできる整体術	小林 史朗	旺史社
超自然医療に挑む	執筆小委員会 編著	医道の日本社
改訂版 あん摩 マッサージ指圧・はり・きゅう受験ポイントマスター 専門	執筆小委員会 著/影山照雄 監	医道の日本社
改訂版 あん摩・マッサージ指圧・はり・きゅう・柔道整復 受験ポイント	執筆小委員会 編著/小島孝昭 監	医道の日本社
改訂版 あん摩・マッサージ指圧・はり・きゅう受験ポイントマスター 専門	北村 智/森川和育	医歯薬出版
鍼灸臨床マニュアル	三宅 綱子	旬報社
わが家でできる健康指圧 癒す、なごむ、楽にする!	鈴木裕一郎	(株)モテラート
足もみ革命 ひとりでできる生き生き健康術	青山 正	現代書林
激痛・病気が「消える」第三の医療 西洋医学・東洋医学の区別を超えた治療	代田文彦	講談社
お医者さんがすすめるツボ快癒術	代田文彦編/玉川病院生情報会 著	大泉書店
中国式目 肩 腰のツボ オフイスで、自宅で、かんたんにツボ療法 玉進利	教科書執筆小委員会 著/東洋療	医道の日本社
鍼灸臨床生情報 一追試してみたい疾患別症例集2	教科書執筆小委員会 著/東洋療	医道の日本社
はりきゅう理論	大土 裕	農山漁村文化協会
はりきゅう実技〈基礎編〉	大槻 一博	BABジャパン出版局
自力整体法の実際	執筆小委員会 編著/小島孝昭 監	医道の日本社
タイ・マッサージ 微笑みの国からの贈り物	執筆小委員会 編/景山照雄 監修	医道の日本社
改訂版 あん摩・マッサージ指圧・はり・きゅう受験ポイントマスター 専門	丹澤章八 編集/東洋療法研修試	医道の日本社
改訂版 あん摩・マッサージ指圧・はり・きゅう 受験ポイントマスター		医道の日本社
チャコ先生の健やかに生きるツボ教えます 浜口ひさ子		文芸社
高齢者ケアのための鍼灸医療 一鍼灸の新しい概念を求めて一		医道の日本社
はりきゅう理論 教科書執筆小委員会 著/東洋療		医道の日本社
なる本 カイロプラクティック師 改訂版 全国カイロプラクティック師会		週刊住宅新聞社
臨床実践 鍼灸流儀書集成 第15冊 端座流秘伝書 知心流鍼治 鍼灸指掌～第20冊 ●眼 玉衡 瘍医新書刺絡編		
四肢のモーション・バルパーション 上巻 四肢関節障害のための基本的検査	オリエント臨床文献研究所 監修	オリエント出版社
中医針灸学の治法と処方 弁証と論治をつなぐ	中川 貴雄 編著	科学新聞社
奇跡が起こる爪もみ療法 爪を2分もむだけで、糖尿病、ひざ痛、耳鳴り、円	邱茂良ほか 編著/浅川要ほか	東洋学術出版社
すぐ効く治るツボの秘密 つらい症状がたちまちとれるセルフケア	日本自律神経免疫治療研究会編	マキノ出版
針灸弁証論治の進め方	胡 伊拉	保健同人社
深谷灸法による病気別 症候別灸治療 患者のからだに聞け	徐恒沢ほか 編著/伊達啓太郎	東洋学術出版社
中医鍼灸臨床發揮	福島 哲也	緑書房
針師のお守り 針灸よもやま話	李世珍 ほか/兵頭明 訳	東洋学術出版社
整体入門	浅川 要	東洋学術出版社
成功するカイロクリニック 消えていくカイロクリニック	野口 晴哉	筑摩書房
	芝崎 義夫	星雲社

図書館からのお知らせ

図書館の利用について

一図書館利用上のルールを守りましょう

図書館利用者が快適な環境のなかでスムーズな図書資料の利用を行って頂く為、図書館利用規程(学生便覧等)は必ず一読し、ルール違反のないよう、互いに気を付けましょう。

情報検索

1、医学中央雑誌 Web 版 (学内 LAN からのみ検索可能)
医学・歯学・薬学・看護学等の医学関連分野の国内発行定期刊行物2400誌の書誌事項の検索を、ID やパスワードなしで行う事ができます。

[URL] <http://jsec1.jamas.gr.jp/alm.asp>

2、NACSIS Webcat (インターネットで検索)

大学図書館等に所蔵されている図書や雑誌の所蔵調査をキーワードひとつで行う事ができます。

所蔵資料の他大学図書館での閲覧や文献複写の取り寄せが当館のレファレンスを経て出来ます。

[URL] <http://webcat.nacsis.ac.jp>

蔵書点検結果

一図書の貸し出し手続きは、確実に実行して下さい

平成14年度の蔵書点検(開架図書)において、31冊(158,602円)の図書が紛失していました。無断帯出の覚えのある方は至急返却して下さい。

雑誌の新規購読および購読中止等について (2003年から)

*新規購読

病理と臨床
医学中央雑誌 Web 版

*購読中止

Index Medicus
Complementary Medicine Index,
Excerpta Medica
医学中央雑誌 (月刊誌終刊)

平成13年度土曜日入館者数

(実人数)

月	2001												2002			合計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
人数	5	6	10	30	8	12	1	10	2	4	5	93				

平成13年度の蔵書現況

蔵書冊数: 53,181冊、昨年より1,458冊の増。

内訳: 一般図書 40,163冊 (8,595)、点字図書 1,404冊、製本雑誌 10,236冊 (5,189)、視聴覚資料1,378点 (95)。

雑誌タイトル数: 206タイトル

内訳: 学術雑誌189タイトル(75)、一般雑誌17タイトル ()は外国書で内数。

平成13年度利用者区分別貸出件数

(人数は延べ数)

区分	1年生	2年生	3年生	4年生	院 生	卒 研 生	その他	教職員	小 計	
13年度	人数	284	423	323	509	115	99	34	273	2,060
	%	13.8%	20.5%	15.7%	24.7%	5.6%	4.8%	1.7%	13.3%	100%
	冊数	429	519	438	764	245	324	52	1,002	3,773
	%	11%	14%	12%	20%	6%	9%	1%	27%	100%
12年度実績	人数	307	813	303	634	139	66	41	190	2,493
	%	12%	33%	12%	25%	6%	3%	2%	8%	100%
	冊数	437	1,109	453	931	401	186	110	679	4,306
	%	10%	26%	11%	22%	9%	4%	3%	16%	100%

卒業後の図書館利用について

受付けで卒業生である旨を申し出て下さい、確認後、ご利用頂けます。



在学中に発行を受けた図書カードが引き続き利用できますので、入館時に受付けへ提示して下さい。

図書の貸出限度冊数は3冊、貸出期間は1ヶ月です。

編集後記

「鍼灸医学の文献的ルーツは？」と問われると多くの鍼灸師は『素問』、『靈枢』、『難経』等の書名をあげる。つぎに、「どんなことが書いてあるのですか？」と問われると、「鍼灸医学の生理・病理・診断・治療法が書かれてあるようです」と、歯切れの悪い答えが返ってくる。そこで、「読んだことがありますか？」と問われると、ほとんどの学生、鍼灸師は「機会があれば読みたいと思っています」という答えが多い。医学・医療は時代によって変遷を遂げる。しかし、数千年の歳月にわたって書き換えられることなく未だに読み継がれる鍼灸医学の原典、技術書であり、臨床技術がなければ読んでも意味不明であることが多い。したがって、読むほどに理解度を増すことが面白い。最近では現代語訳まで出版されている。卒業するまでに一度は読んで欲しいものである。

s. s